



男女共同参画 と 防災

○男女共同参画・多様な視点で災害に備えましょう
過去の災害の教訓として、男女それぞれに異なるニーズや多様な生活者の視点に配慮した防災対策、地域住民の「自助」、「共助」の取組の重要性が指摘されています。

災害時には、誰もが協力し合い、きめ細かい配慮が行き届く環境づくりが必要ですが、そのためには、男女共同参画・多様な視点を取り入れた防災を日頃から考え、実践しておくことが大切です。

【自助】
自分の身は自分で守る

【共助】（近助）
地域で身近な人同士（お互いに近所）が助け合う
行政による救助や支援

○平時時から災害に備えましょう

防災は、「自助」が基本となります。災害をイメージし、家具を固定するなど、個人や家庭でできることから始めましょう。また、災害時、一刻の予断を許さない状況では、近隣の人たちで力を合わせて被害に合った人たちを救助・支援する「共助」（近助の精神）が不可欠です。そのため、日頃から近所の方と顔の見える関係をつくっておきましょう。

○家族や知人、近所で集まり会議を開きましょう
災害時における家族や知人の共通の連絡先や安否

確認の方法、避難場所等を話し合っておきましょう。また、避難経路も確認しておきましょう。

○個人や家庭のニーズに応じて備蓄を準備しましょう
それぞれのニーズに応じて、食料や生活必需品など、災害時に必要な物資を準備しましょう。また、地域で備蓄品を準備する場合は、女性や子ども、高齢者、障害者など様々な住民の意見を反映させて品目を選びましょう。

○地域で防災訓練を行う際には、多様な世代の男女が参加するようにしましょう
性別や年齢などに関わらず様々な住民が参加し、より実践的な訓練を行いましょ。また、訓練時は、「男性だから」「女性だから」という理由ではなく、個人の得意分野や自主性を尊重し、炊き出しの担当が女性だけになるなど、役割を固定化することのないようにしましょう。

○自治会等の地域の方針を決める場に女性も参画しましょう
女性は、乳幼児や要介護高齢者、障害者などの身近にいる場合が多く、そうした人たちのニーズを代弁できる立場にあります。女性が多く参画することで、より幅広い視点でアイデアを取り入れることができます。

○日頃から男女がともに支えあう地域づくりに努めましょう！
災害時に男女が協力し合って災害対応にあたるためには、日頃から家庭や職場、地域などあらゆる場面において、男女共同参画を推進し、多様な視点を取り入れた防災を考えておく必要があります。

問い合わせ
総務課防災係

☎ 22-7719

「男女共同参画社会」ってどんな社会？

「男女共同参画社会」とは、男女がお互いの違いを認めあい、対等な関係で性別に関わりなく個性と能力を発揮し、かつ、共に責任も分かち合う社会のことです。「参画」とはただ加わるだけの「参加」と違い、一緒に考え、より楽しめるようにすることです。

「女だから、男だから」、「男らしく、女らしく」とか、「女らしさ、男らしさ」なんてことを求められたら苦しくありませんか？

多様性を認め合って、それぞれがその人らしく

生きていく。そんな社会は誰もが生きやすい社会ではないでしょうか。

たけはら男女共同参画社会づくり実行委員会は市と協働して、「誰もが幸せを感じてくらせるまち たけはら」をめざし、今年度も「たけはら男女共同社会づくり講座」を開催します。

「男女共同参画社会」の実現をめざし、みなさんの参加をお待ちしています。

問い合わせ

たけはら男女共同参画社会づくり実行委員会
(人権推進室内) ☎ 22-7736